

息子との朝日連峰縦走

4期 佐藤 秀紀

8月12日～15日、朝日連峰を次男と縦走してきた。昨年登る予定であったが、その直前に突然私が肺炎になり今年に延期したものである。その前の年飯豊連峰を縦走したので、隣接する朝日連峰をやろうとなった。この連峰の上には月山があり、さらに北には鳥海が位置する。朝日連峰は新潟と山形の県境にあり、主峰の大朝日岳(1,870m)は山形県側にある。経路は山形県の大鳥登山口から入り、朝日鉱泉へ下る南下コースを取った。

初日(8月12日)。私は金沢(北陸新幹線)上越妙高(信越線)新潟(羽越線)鶴岡下車。息子とは新潟で落ち合う。山形県鶴岡駅からバスにて大鳥登山口まで入り、朝日旅館に投宿(今年より土日は鶴岡・泡滝ダム間のバスが運行されるようになった)。

この上に大鳥池という大きな池がありその周辺では大きな岩魚が取れるらしく全国的にも多くの釣り人達がやってくるようだ。近くにまぼろしの大魚タキタロウにちなんだ記念館がある。

二日目(8月13日)。6時に宿の車で泡滝ダム登山口まで送ってもら(無料)。6:30登山開始。谷川に沿って大鳥小屋まで3時間半。10時大鳥小屋から本格的に登りとなる。この日気温高く、急登もあって意外と疲労した。息子があまりにしんどそうなので、途中でザックを交換した。さすがに息子のザックは重い。それでも何とかしばらく担いでいるうちに息子も回復したようなので元に戻す。

予定よりかなり遅れて16時ようやく以東小屋に到着。小屋には水がなく、疲れた体で下の雪渓の水場までの水汲みは厳しかった。

この辺りの小屋は飯豊連峰と同じく、管理人はいるが、寝袋・食料持参の避難小屋である。

宿泊費1,500円。缶ビール800円。同宿人で沢を3泊もして登ってきた若い人がいて驚く。すごい人があるものだ。同宿の人たちと外のテーブルあたりの山々を見ながら一杯飲みながらの談笑は楽しく得難いものがある。

三日目(8月14日)。6時以東小屋出発。今日がメインの縦走路。すぐ以東岳(1,772m)頂上に至る。早朝の尾根歩きは気持ちが良い。天候は晴れだが、内陸部側には雲があり尾根で天候が分断されて



寒江山からの尾根道を行く(8月14日)

いる。遠く一昨年縦走した飯豊連峰が見える。ヒナウスユキソウ、タカネマツムシソウ、ハクサンシャジン、ハクサンイチゲなどの高山植物が多くみられる。ガスが出てきて涼しい。8:30 孤穴小屋。10時寒江山(1,695m)、11:40 竜門山(1,688m)、14:00 西朝日岳を経て16:00 大朝日小屋到着。ここも水がなく、直前の雪渓近くの水場で水を補給。ついでに、途中の竜門小屋で仕入れた缶ビールを冷やす(大朝日小屋には缶ビールがない)。

今日も後半は昨日の疲れが取れず予定よりかなり遅れる。しかし、ゆったりとした尾根歩きと涼しいガスに助けられた。この小屋は大変混むそうだが今夜は8人ほどでゆったり休めた。

四日目(8月15日)。早朝に起きて大朝日岳(1,871m)へ登りご来光を拝した。



大朝日岳山頂(8月15日)

登頂時はガスでご来光は見られないかと思われたが運よく晴れて幸いだった。

6:25 小屋を出発。晴れ。今日は縦走最後。しばらく下り、後ろを振り返ると大朝日岳のどっしりとした山塊が青空に映える。



大朝日岳 (8月15日)

8:00 急登の小朝日岳(1,647m)山頂に至る。さらに鳥原山(1,429m)を越えると鳥原小屋の手前に水場があり、水を補給ししばし休憩(10:55)。

その後は尾根をほとんど水平に長い下りとなり、最後にジグザクに急に谷川まで降りると鉱泉まで500mの看板。思わず歓声を上げる。それほど長い下りであった。

その後、揺れる吊り橋を渡り、少し登ってようやく朝日鉱泉に到着(13:30)。ご苦労様でした。風呂に入り、生ビールで乾杯。おいしい蕎麦を頂き、14:30のバス(小型バン)に乗る。乗客6人。15:30左沢(あてらざわ)駅。16:15同発、16:56山形着。17:05山形発(山形新幹線)、19:22大宮乗り換え、21:54(北陸新幹線)金沢着。

今回は、初日の暑さの中の登りの疲労による体力消耗、それに伴う体調悪化が後まで尾を引いたやや厳しい山旅であった。しかし、それも振り返れば思い出深い山旅であったともいえる。

また、ゆったりとした、高山植物にあふれた尾根歩きや、二つの避難小屋を通した同じ山旅人たちとの出会い・交流印象深い山旅でもあった。山旅すべてを通して何かと世話になった息子のお陰で、これら思い出深い山旅を無事終えることができた。心より感謝したい。

しかし、寝袋や食料を担いでの連泊の山旅はさすがにしんどくなり、淋しい思いもあるが今回を

最後にしようと息子に告げたのである。

これまで息子との登山は、2012年屋久島宮之浦岳が始まりで、2013年仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳、2014年白峰三山(北岳、間ノ岳、農鳥岳)、2015年鳳凰三山、2016年燕岳・大天井岳・常念岳・蝶ヶ岳、2017年飯豊連峰。そして2019年朝日連峰。

7年間、よく登ってきたものだ。持つべきものは息子である。感謝感謝。

